

☆ 聖木曜日(4月9日)の聖書朗読 ☆

※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (出エジプト記 12章 1~8, 11~14節)

その日、エジプトの国で、主はモーセとアロンに言われた。「この月をあなたたちの正月とし、年の初めの月としなさい。イスラエルの共同体全体に次のように告げなさい。『今月の十日、人はそれぞれ父の家ごとに、すなわち家族ごとに小羊を一匹用意しなければならない。もし、家族が少人数で小羊一匹を食べきれない場合には、隣の家族と共に、人数に見合うものを用意し、めいめいの食べる量に見合う小羊を選ばねばならない。その小羊は、傷のない一歳の雄でなければならない。用意するのは羊でも山羊でもよい。それは、この月の十四日まで取り分けておき、イスラエルの共同体の会衆が皆で夕暮れにそれを屠り、その血を取って、小羊を食べる家の入り口の二本の柱と鴨居に塗る。そしてその夜、肉を火で焼いて食べる。また、酵母を入れないパンを苦菜を添えて食べる。それを食べるときは、腰帯を締め、靴を履き、杖を手にし、急いで食べる。これが主の過越である。

その夜、わたしはエジプトの国を巡り、人であれ、家畜であれ、エジプトの国のすべての初子を撃つ。また、エジプトのすべての神々に裁きを行う。わたしは主である。あなたたちのいる家に塗った血は、あなたたちのしるしとなる。血を見たならば、わたしはあなたたちを過ぎ越す。わたしがエジプトの国を撃つとき、滅ぼす者の災いはあなたたちに及ばない。この日は、あなたたちにとって記念すべき日となる。あなたたちは、この日を主の祭りとして祝い、代々にわたって守るべき不変の定めとして祝わねばならない。

第二朗読 (使徒パウロのコリントの教会への手紙Ⅰ 11章 23~26節)

わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです

福音朗読 (マタイによる福音書 27章 11~54節)

過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。夕食のときであった。既に悪魔は、イスカリオテのシモンの子ユダに、イエスを裏切る考えを抱かせていた。

イエスは、父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと、また、御自分が神のもとから来て、神のもとに帰ろうとしていることを悟り、食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。

シモン・ペトロのところに来ると、ペトロは、「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか」と言った。イエスは答えて、「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」と言われた。

ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うと、イエスは、「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。そこでシモン・ペトロが言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も。」イエスは言われた。「既に体を洗った者は、全身清いだから足だけ洗えばよい。あなたがたは清いのだが、皆が清いわけではない。」イエスは、御自分を裏切ろうとしている者がだれであるかを知っておられた。それで、「皆が清いわけではない」と言われたのである。

さて、イエスは、弟子たちの足を洗ってしまうと、上着を着て、再び席に着いて言われた。「わたしがあなたがたにしたことが分かるか。あなたがたは、わたしを『先生』とか『主』とか呼ぶ。そのように言うのは正しい。わたしはそうである。ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

このホームページをご覧になっている皆さま、今日は聖なる三日間の聖木曜日です。聖木曜日のミサではいくつかの記念が行われますので、聖書朗読の順に従って説明したいと思います。

出エジプト記（出エジプト12. 1-8, 11-14）

ここではイスラエルの人々がエジプトで虐げられた生活を送っていたのを神は哀れまれ、モーセを召し出して、その困難から救い出された様子が述べられています。主イエスの受難の時になぜこれが読まれているのかは、父である神はイエスを通して人類を悪の束縛、虐げられた状態から解放されたことを記念するからです。過越祭と言われていたエジプトからの解放の祭に合わせて、神は罪の隷属からの新しい開放を成し遂げられるのです。その意味では神の人間への愛と約束への忠実さが浮き彫りになってきます。

使徒パウロのコリントの教会への手紙（1コリント11. 23-26）

初代教会の信徒の皆さんに対してパウロは、当時行われていた「パンを裂いて食べる式」の由来について述べています。つまり現在私たちが行っているミサの起源について述べているといっても過言ではないでしょう。この「パンを裂いて食べる式」は私たちが愛し抜き十字架上で苦しみの中に亡くなられたあの主イエスの私たちへの遺言だったとパウロは言っているのです。「だから、あなた方は、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです」。ですから聖木曜日の儀式・ミサはご聖体の制定とそれを中心とした祈りの式、つまりミサの起源を記念しています。また特に、カトリックではこの式を主宰する役割を担う人としての司祭職の制定を認めています。

ヨハネによる福音（ヨハネ13. 1-15）

主イエスは過越祭の食事の席上（いわゆる最後の晚餐）、「世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた」しるしとしての模範を行われます。「洗足式」です。「立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとい、たらいに水を汲み、弟子たちの足を洗い、腰にまとった手拭いで足を吹かれた」。ヨハネはイエスの動作をひとつひとつ大事なこととして丁寧に記録していきます。「私がした通りにあなた方もするようにと、模範を残したのである」。イエスは漠然とした模範を残されたのではなく、具体的に、このようにしなさいと、言われたのです。そのために聖木曜日の儀式中洗足式が行われるのです。聖木曜日の式はイエスの私たちへの遺言です。「心」です。私たちはこのイエスの遺言をむなしのもの、形だけのものにせず、具体的に実践したいものです。